

林

史

第 六 卷 第 一 號

大 正 十 一 年 一 月 一 日 發 行

年 四 回

要 目

口 繪——慈圓自筆消息案

愚管抄の研究……………文學博士 三浦 周行

版籍奉還始末の研究(上)……………澤田 章

萬曆時代日本人の
マカオ驅逐に就て……………文學博士 矢野 仁一

歌謠史上に於ける
「雜藝」に就きて……………文學士 志田 義秀

歷史的事象評價の
標準に就きて……………文學士 三木 清

經濟地理學上より觀
たる戦後の世界(中)……………文學士 寺田 貞次

瓜哇紀行(上)……………文學博士 松本文三郎

北攝より發見したる切支丹遺物……………橋川 正

ブライス氏『南米印象記』(批評)……………文學博士 原 勝郎

日本古建築研究の栞(五)……………工學博士 天沼 俊一

彙報 會報

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部

史 學 研 究 會

史學研究會規則

前號目次

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第一條 | 本會は史學研究會と稱す |
| 第二條 | 本會は同志の土相集まり史學に關する研究をなすを以て目的とす |
| 第三條 | 本會の事業概ね左の如し 一、會合 二、調査 三、會誌等の發行 |
| 第四條 | 本會に評議員若干、書記一名を置く |
| 第五條 | 評議員は會員中より之を推選し委員及書記は評議員之を囑託す |
| 第六條 | 評議員及委員及書記の任期は一年とす但し再任するることを得 |
| 第七條 | 評議員は會務を指導し委員は編纂會計庶務を分掌す |
| 第八條 | 毎月一回例會を開く會場等は其都度の之を定む |
| 第九條 | 毎年十一月に於て總集會を開き評議員の選舉及會務の報告をなす |
| 第十條 | 會費は年々金參圓とす |
| 第十一條 | 入會せんとするものは會員の紹介を以て申込むべし |
| 評議員 | 文學博士 今西 龍 (イロハ順) |
| 同 | 文學博士 原 勝 |
| 同 | 文學博士 濱 耕 |
| 同 | 文學博士 小 塚 |
| 同 | 文學博士 内 次 |
| 同 | 文學博士 藤 虎 |
| 同 | 文學博士 野 仁 |
| 同 | 文學博士 阪 貞 |
| 同 | 文學博士 三 周 |
| 同 | 文學博士 喜 直 |
| 同 | 文學博士 那 利 |
| 同 | 文學博士 中 波 |
| 同 | 文學博士 村 清 |
| 同 | 文學博士 桑 禮 |
| 同 | 文學博士 下 觀 |
| 同 | 文學博士 岩 小 |
| 同 | 文學博士 島 貞 |
| 委員 | 吉 昂 (編纂擔任) |
| 同 | 一 藏 (編纂擔任) |
| 同 | 耶 治 (庶務會計擔任) |
| 同 | 作 龍 (庶務會計擔任) |
| 同 | 勝 貞 (庶務擔任) |
| 同 | 助 勝 (庶務擔任) |
| 同 | 通 編 (庶務擔任) |
| 同 | 佐 編 (庶務擔任) |
| 同 | 太 編 (庶務擔任) |
| 同 | 彦 會 (庶務擔任) |
| 同 | 計 會 (庶務擔任) |

| | | |
|-----------------------------|------|-------|
| 德川幕府の耶教 | 文學博士 | 新村 出 |
| 禁壓と儒者 | 文學博士 | 内藤虎次郎 |
| 都爾鼻考 | 文學博士 | 米田庄太郎 |
| 輓近の歴史哲學と社會哲學(下) | 文學博士 | 牧野信之助 |
| 莊園制度崩壞の一例としての越前國河口坪江莊の研究(下) | 陸軍少將 | 杉村勇次郎 |
| 朝鮮役の給養問題 | 文學博士 | 松本文三郎 |
| 埃及旅行記(下) | 文學博士 | 寺田 貞次 |
| 經濟地理學上より觀たる戦後の世界(上) | 文學博士 | 天沼 俊一 |
| 日本古建築研究の棗(四) | 文學博士 | |
| 紹介 彙報 會報 | | |

會費增額廣告

印刷費紙價引續き騰貴の爲め従前の會費にては頁數減少紙質低下の外無之季刊雜誌の特長を維持致し難く候に付評議員の決議を経て大正十年度より當分の中

會費年額 金參圓

に相改め頁數を増し紙質を善くし益々内容の充實に力め度同時に發行者をも相改め候間此段御諒承相成度候 敬 具

大正十年一月

史學研究會

雜誌發行所變更廣告

今般都合により本誌發行所を

京都市新町通七條北入

内外出版株式會社

に相改め又會費蒐集、雜誌發送に關する事務をも便宜同所に於いて取扱ひ候事に致し候に付、自今會費及雜誌發送等に關しては直接右宛名へ御交渉相成度候、但し入退會、雜誌原稿に關する事務は従前の通り左記宛に御通信相願候也

大正十年一月

京都帝國大學文學部内

史學研究會

大正九年度會計報告 (大正九年十一月廿五日現在)

收 入

金千百六拾五圓拾八錢七厘 總 額

內 譯

金百〇六圓貳拾七錢七厘 前年度繰越金

金千〇四拾七圓六拾錢 會 費 收 入 金

金拾壹圓參拾壹錢 雜誌賣上及雜收入

支 出

金千〇拾圓拾四錢五厘 總 額

金八百參拾圓四拾四錢 史林購入及發送費

金拾壹圓六拾貳錢五厘 通 信 費

金六拾四圓六拾八錢 大會及例會費

金四拾壹圓四拾錢 原 稿 料

金六拾貳圓 役員慰勞費

差引金百五拾五圓四錢貳厘 翌年度へ繰越金

特別會計之部

金百參拾六圓拾參錢 現 在 額

會費領收報告

金貳圓也 (大正十年度會費ノ内)

芝 文 雄 島村孝三郎

大田勝一 齋藤俊次

下村三四吉

金壹圓也 (大正十年度會費ノ内)

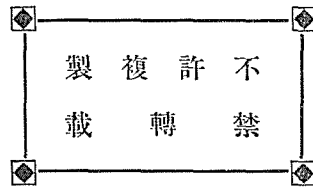
龜井高孝

■ 編纂餘言

本誌は毎年一月號誌上に昨年の史學地理學界欄を設け、過去一年に於ける史學地理學上の重なる業績を録して斯學の趨勢を概觀するに便し來りしも原稿締切期の關係上、十一月下旬より十二月の出版に係るものは全部これに漏るゝの已むを得ざるを遺憾とし、本年よりはこれを四月號誌上に譲りて名實相伴ふものとなさんとす。猶本號は原稿輯載の爲め二三の論文を分割し川島、下川二學士の論文及び新刊圖書の紹介を擧げて次號に割愛するの已むを得ざるに至れり。こゝに特記して寄稿者諸氏に謹謝す。

大正九年十二月廿八日印刷
大正十年一月一日發行

【年四回一四月發行】



史學研究會
定價
一冊 金七拾五錢
送料 金四錢
一年分前金參圓

編輯所

史學研究會

京都帝國大學文學部内

播磨口座大阪壺四五五六

編輯者 岩橋小彌太

京都市下京區三條通御幸町西入

發行者 大谷仁兵衛

京都市下京區北小路通新町西入

印刷者 須磨勤兵衛

京都市下京區新町通七條北入

印刷所 内外出版株式會社印刷部

京都市新町通七條北入
東京市京橋區加賀町十

發行所

内外出版株式會社

電話一丁 播磨四一五〇番
一一四一番

播磨口座大阪三二九五番

